社会福祉法人 光寿会

2022年1月15日 (1)

まんさく

正月号 第273号

発　行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197－84－2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字　元理事長 太田祖電

音楽には、歌には、人と人の心を垣根なくつないでくれる力があります♪

年末のこの刻を待っていた！

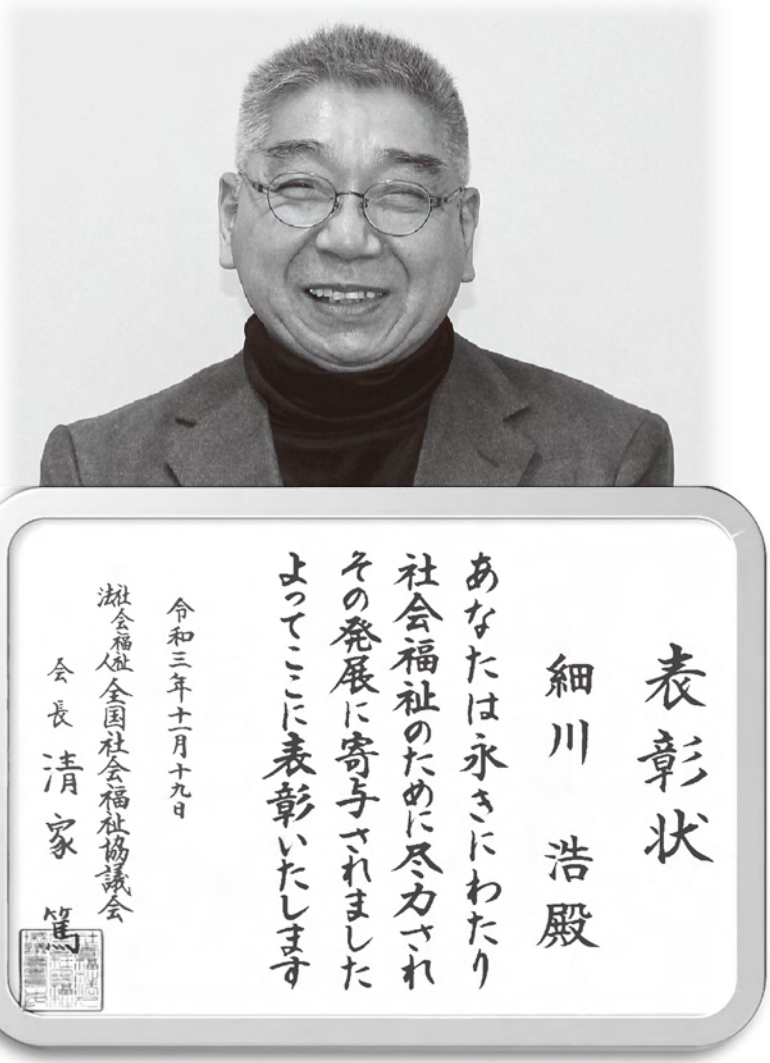
クリスマスライヴ♪

《令和3年12月21日》

〝音楽でお年寄りと共に心を和らげたい〟と願い開催したクリスマスライヴ♫懐かしの唄を含めた5曲を披露し、大いにハシャぎました！かな!?(笑)

光寿会ホームページは『光寿会 にしわが』で素早く検索できます(^^♪

永年勤続者として全国表彰を授与！



【細川 浩 … 光寿苑総括課長】

☆昭和63年4月1日就業
↓以来、33年8ヶ月勤続中
☆行事の多かった昭和後期から平成中期には企画員に従事し、光寿苑のお年寄りや職員を大いに沸かせた
☆その後、居宅介護支援事業所介護支援専門員として利用者や家族のため奮闘
☆在宅課長を歴任し、現在は総括課長

★苑内研修★ 緊急時対応 12月14日、15日

例題▽午前10時。訪室の際、横になっていたKさんに声掛けするが反応なし。本人顔面蒼白で、唇が紫色になっていた。朝食も普段と変わらず全量摂取…等△…この状況で…
①どのような事態が考えられるか？
②どういった対応をするか？
右記2点のグループワーク実施。其々の視点と対応について確認。また、脈の測り方や緊急時の注意点と対応の流れについて等の基本を検証する等、意識が高まった時間だった。

～今回も2日間にグループ分けをして、3密を避けながら参加率をあげて臨みました～

令和3年度下半期も「知る」を大切にスタート！

【生活】「②医務部門」☆佐藤真理子☆

法人キーワード		2021年度共通のキーワードは『知る』	
2021年度上半期のイメージ像	テーマ	お年寄りを敬おう	
	理想像	目　標　①	目　標　②
		お年寄りの置かれている状況を知る事ができる。	家族と情報を共有する事ができる。
	具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①自分自身の心にゆとりを持つ。 ②お年寄りと目線を合わせ、表情と言葉から伝えたい事を読み取る。 ③コミュニケーションを図る事で、お年寄りを知る事ができる。	①普段からお年寄りの想いを汲みとり、家族との橋渡しができる。 ②家族への連絡を小まめに行う事で、家族の視点から物事を知る事ができる。

↓

2021年度上半期の検証	目標①について ＊上半期は、入院者や病院でご逝去される方が多かったが、介護との連携の中で、基礎疾患だけでなく、お年寄りの変化を見逃さず、早めに対応する事ができた。 目標②について ＊看取りの方が多く、コロナ禍での対応の難しさを感じた。 ⇒面会や看取り期の付添いについても適宜対応していったが、ご家族の満足のいくものだったかは分からない。 ⇒コロナ禍だからこそ、いつにも増して頻繁に家族への連絡を行った。

↓

2021年度下半期のイメージ像	テーマ	お年寄りを敬おう	
	下半期理想像	目　標　①	目　標　②
		お年寄りの置かれている状況を知る事ができる。	家族と情報を共有する事ができる。
	具体的な取組み（いつ、何を、どのように）	①自分自身の心にゆとりを持つ。 ②お年寄りと目線を合わせ、表情と言葉から伝えたい事を読み取る。 ③コミュニケーションを図る事で、お年寄りを知る事ができる。	①普段からお年寄りの想いを汲みとり、家族との橋渡しができる。 ②家族への連絡を小まめに行う事で、家族の視点から物事を知る事ができる。

3.11以降に防災士資格を取得。防災精神とあり方を世間に発信し続ける大阪府の松岡由美さんです。今回は『「いのち」の授業』と題して投稿くださいました。今回号もとても大事なメッセージが込められております。長編という事で、今回は２ページに渡り、全文をご紹介したいと存じます。ぜひ、ご一読ください。

「いのちの授業」

私は、障がいや心の病いなどで何らかの支援等を必要とされる方たちの相談支援のお仕事をさせてもらっています。その中で、様々な事情により、深い傷つき体験をした方と出逢うことがあります。おひとりおひとり、事情や背景は違えど、こころにも体にも大きな痛みと苦しみを抱えて、大きく揺れ動きながらも、「生きるために」その痛みを何とか自分で〝手当て〟をしようと、自分で自分を傷つけることを繰り返されるケースがあります。

国立精神・神経医療研究センターの松本俊彦さんの「自傷　やめたい！でもやめられない人たちへ」の講演の中で、「言語化できず、〝何かわからない手に負えない強い感情〟を軽減するための行動でもあり、回復のヒントとして「関わり続ける」ことの大切さ」をお話されていました。

日々の支援の中で、小手先の方法論なんかで対峙できるものではなく、生身の人間同士の向き合いを通して、「リカバリー（回復）」を見守ってきました。

リカバリーとは、病気のケアが人生の目標ではなく、病気や障がいを抱えながらも、その人がその人らしく、人生を送れるようになっていく過程です。リカバリーの道は人によってそれぞれ違います。ひとりひとりの暮らし、生き方、環境、人との関係性、歩んできた人生経験、価値観があり、リカバリーの道も多様にあります。

今回は、利用者Bさんのお話をしたいと思います。ご本人から、「どうかたくさんの人に伝えて欲しい」と想いを託して頂いて、私の「防災研修」の最後は毎回、Bさんのメッセージを紹介しています。

出逢った当時はまだ17歳だったBさん。生きづらさを抱えながらも、生きるために自傷行為を繰り返す中でのリカバリーの旅は、好天の日ばかりではなく、暴風雨が吹き荒れる嵐のような日もありました。それでも、懸命に生きる姿を、傍で見守る

職員募集中

看護職員〔お年寄りの健康を守ります〕
介護職員〔お年寄りの暮しを守ります〕
調理職員〔お年寄りの 食 を守ります〕
働き方は様々です。ご相談下さい♪

【緊急で急募しております！】

看護師 と 調理員

町外の方等であれば、住まいも併せてケアさせて頂く構えです(^^♪

まずはお電話を！0197-84-2526

想…災害を捉える ～大阪から発信をいたします⑨～

「いのち」の授業 … 防災士・松岡由美

中で、「私の防災研修を聞いて欲しい。いのちの授業をしよう。」と声を掛けました。

たったひとりの講演会。2時間、Bさんに向けて防災を通した「命のメッセージ」を伝えました。

後日、Bさんが寄せてくれた感想の全文を紹介します。

▽松岡さんの防災研修の感想△

生きているのか、生かされているのか

命ってなんなんだろう。

自然災害で亡くなった人も

自ら命を絶った人も

どんな気持ちだったんだろう。

▽まだ生きたい△と願い続けたのかな

▽もう死にたい△と嘆き続けたのかな

いつもと同じように生きていても

真っ当に生きていても

命が終わるその日は誰にもわからなくて

ただ、突然、その日はやってきて

命ってとても壊れやすく、そして重い。

死ぬな、なんて命令はしないけど生きていてほしい。私も生きていてほしい。

人生はいくらでもやり直せるけど死んだらもうやり直せない。

生きるってなんなんだろう。

生きるのがしんどくなった日は何もしなくていいから。

ただ、居てくれているだけでいいから。

また、元気になったら、始めたらいい。

神さまもそこまで意地悪じゃないはず。

生きていい。

生きていい。

そして、このメッセージの最後はこう締めくくられていました。

▽松岡さんの防災研修を聞いて行動する人。聞いても行動しない人。それぞれがおるんやろうなあ△。

と。私たち大人がどう行動するのか。

前者でありたい…そう願います。

『続く』

ライフサポート協会　松岡由美

光寿会へのご支援おかげさまでした

★＝光寿苑、☆＝ひなたぼっこ

専門学校の生徒さんによる現場実習中

面会（上段）／実習（下段）

★ 光寿会家族会 様
⇒ 延べ46名（12月1日～31日）

★ 専修大学福祉教育専門学校1年生
⇒ 1名（11月25日～12月10日）

寄附

★ 東　英夫 様〔北上市〕
★ 加藤保典 様〔新　町〕
★ 匿名希望 様〔太　田〕

寄贈

★ 髙橋達子 様〔大　野〕
★ おおしま商店 様〔湯　本〕
☆ 髙橋美智子 様〔上野々〕
☆ 三上　正 様〔盛岡市〕
☆ 菅原康悦 様〔滝沢市〕
☆ 小松陽子 様〔秋田県〕
☆ 中田幸子 様〔東京都〕
☆ 小田島明文 様〔東京都〕
☆ 小田島五郎 様〔愛知県〕

今月の登録者の方々
16名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

冬本番も元気ですよ！…「ひなたぼっこの日常」

【上2枚】12月19日　お茶会『干支の張り子』
【下2枚】12月28日　年の瀬もちつきの会

第5回『運営推進会議』〔12月16日〕

≪外部委員10名、職員4名出席≫

職1　運営委員による外部評価まとめの会となります。

委1　私も含め、今回初の委員も多い中、サービスの実状を見ていないので、チェックが難しいというか、正直、分からない箇所が数ヶ所ありました。（月志見が数件出される）

職2　コロナ禍以前ですと「通いサービス」の見学を一度入れてきたのですが、この2年は未実施だったため、情報等による想像してのチェックをお願いしたいのですが…。広報紙まんさくもご活用下さい。

委2　前回の改善計画がないが？

職1　昨年（ぜんかい）の評価時に次回の課題であがった内容のみが記載されるため、今回は無しです。

委3　▽事業所は、地域の防災訓練に参加・参画しているか△とありますが、どうですか？

職1　コロナ禍で困難な時もありますが、以前より職員が参画してきました。

委1　防災訓練の案内等、事業所（ひなたぼっこ）宛にもお出ししますね。

ご家族に尊敬され続けた偉大なる母、往く

『今生より往く』

加藤ツエさん【107歳】

90才過ぎまでお店に立ち、お店一筋の人生でした。「おせり」では、ラーメンも出す程の腕前だったそうです。いつも娘さん夫婦が持って来て下さるケーキを「うまい♡」と食べていた姿が印象的でした。光寿苑のアイドル、永遠に。ありがとう☆☆

《金子 利加子》

元気です！家族会♪

第99回

第99回目も、家族会役員の掃部佳代子さんの弟様・久保孝喜さんよりご執筆を頂いております♪ 今回も読んじゃいます。

久保孝喜さん

『長生きも、よいでねな…』④

家には家畜（馬やがて牛）もいて、田んぼと畑、雪解けの時期の肥引きや春木山、農閑期には土方仕事にも出て、子供の目からも大変さが一目瞭然の暮らしを何年と過ごしたのでした。姉が就職し、やがて私も家を出てからの50才台になってからが、束の間の一息ついた暮らしということだったでしょうか。

夫と始めたゲートボールや大正琴サークルなどは、その事実を知って子供の私には大変な驚きでした。スポーツや音楽など母には無縁のものと思っていましたから、時に嬉々として練習する母親の姿は、微笑ましくもどこかホッとする光景でした。考えてみれば、母の兄弟姉妹には音楽関係者がやたらと多いのです。弟のひとりは集団就職先で三味線を習い、やがて同業の妻と民謡教室を開いて、時に公演会もしていますし、その子供は現役の三味線プロ奏者なのです。妹たちもそれぞれ踊りや歌を趣味以上のものにしていますから、近くに住む姉と農家暮らしのふたりは、どこかうらやましく思っていたに違いありません。そんな思いが、大正琴に向かわせたのでしょう。

ともあれこうして母・タイはやがて、父との初めての二人暮らしをすることになります。

『次号がいよいよ最終回！』

我々は皆、かつては桃源に住んでいた

《「和辻哲郎」「古寺巡礼」》

第72回　丸田善明

自然法爾（じねんほうに）

哲学者・和辻哲郎は、30歳（大正7年）の頃、友人と語らい、古都奈良の由緒ある寺々で奉安されている仏に出会う。この時の記録が「古寺巡礼」となって、日本文化の探求に端緒を開いた。冒頭の文は、浄瑠璃寺を訪ねる途中の風景描写に出る。

奈良から6キロ、雨上がりのでこぼこ道を人力車で進む。山をめぐって里に出、また山を登って行くと長閑な農村に行き着いた。浄瑠璃寺はこの村の一隅に、この村の寺らしく納まっていた。和辻はその光景を見て思う。

「古人の抱いた桃源の夢想…それが浄土の幻想と結びついてこの山上の地を択ばせ、この池のほとりのお堂を建てさせたのかも知れない。」

我が胸中に、その夢想に共鳴するものを持っていたことに気づいた。

「我々は皆、かつては桃源に住んでいたのである。すなわち我々はかつて子供であった。」

観光ブームだという。珍しいものを観ただけでは単に通りがかっただけのことである。観た風景や文物が心を打つのは、その根拠が私の心の内にあるからだ。そしてそれは、童心の体験に通ずる…と和辻が言っているようだ。

イラスト：1000

～伝説の107才でした～

光寿苑で暮らすこと12年。95才で入居されたことを思うと、それだけで超人のように思えてくる。店番を90過ぎてもされていて、その頃も金勘定があたり前に出来ていたという。頭を長年使ってきたことで、ジョークも長持ちしたのだろうか(笑)

おわりに

正月三が日には、お寺参りの方が沢山訪れる年中行事が旧沢内地区に残っている。この三が日にいらしたある方がこうおっしゃった。

「最近じゃあ年忌法要は必要ない風潮にもあるよね。俺、今年で88才になる。いよいよ最期の締めくくり方も考えるようになってさ。きっと法要の有る無しも、亡き人と残る人の関わりの深さや受け渡す心の有無とか影響すると思う。亡き後も、法要して思い出してもらえるような生き方したいよなあ。」

生きている間は、相手の事を素直に受容できず後悔する事もある。年忌法要は残った人が、後悔も含めて亡き人の心に出遇い直す時間。

（直）

光寿会では看護師・介護士等職員募集中(^^♪　お電話を 0197-84-2526